

2018年（平成30年） 9月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieee.or.jp>

■ 概況

8/30~9/5のNYMEX・WTIは、68.72~70.25ドルの範囲で推移した。

9月6日は、連休で一日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が市場予想(前週比130万バレル減)を大きく上回る同430万バレルの取り崩しとなったものの、ガソリンが市場予想(同80万バレル減)に反し同180万バレルの積み増し、中間溜分も市場予想(同70万バレル増)を大きく上回る同310万バレルの積み増しとなり、ドル高の進行もあって、続落した。10月限終値は前日比0.95ドル安の67.77ドルだった。

週末7日は、ドル高進行に伴う原油先物の割高感、好調な雇用統計結果による利上げへの警戒感による売りと依然根強いイランの供給懸念による買いが拮抗する形で、ほぼ横ばいだった。なお、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数860基(前週比2基減)。10月限終値は前日比0.02ドル安の67.75ドル。

週明け10日は、米国東南部へのハリケーンの接近にもかかわらず、WTI先物原油の受渡点クッシングの原油在庫積み増し報告があり、4営業日続落した。10月限終値は前週末比0.21ドル安の67.54ドル。

11日は、イラン原油の供給懸念が再認識される中、ハリケーン襲来情報による需給ひっ迫懸念、リビア国营石油本社への武装集団の襲撃情報等から、5営業日ぶりに大幅反発した。10月限終値は前週末比1.71ドル高の69.25ドル。

12日は、EIAの米国在庫週報で予想を大きく上回る取り崩

しがあり、ドル安による原油先物の割安感もあって、大幅続伸した。10月限終値は前日比1.12ドル高の70.37ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(10月渡し)は、前週75.60~76.30ドルの範囲で推移した。9月6日75.20ドル、7日74.60ドル、10日75.40ドル、11日75.80ドル、12日77.50ドルで推移した。

為替は、前週110.99~111.76円の範囲で推移した。9月6日111.26円、7日110.51円、10日110.93円、11日111.45円、12日111.58円で推移した。

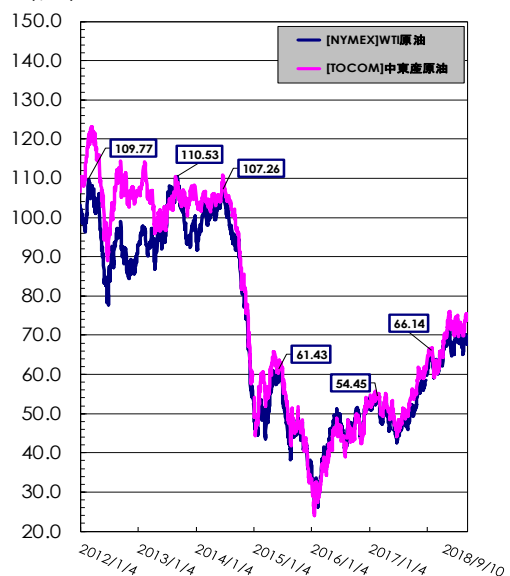
財務省が7日発表した貿易統計(速報)によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格は、54.047円/klで、前旬比260円安、ドル建ては77.15ドルで前旬比0.15ドル安。為替レートは1ドル/111.36円だった。

主要元売会社の9月第2週に適用する卸価格は、全油種1.5円の値上げとなった。原油価格は大きく値上がりし、為替レートもやや円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、9月10日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.0円の値上がり、軽油が同0.9円の値上がり、灯油は同9円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、2週連続の値上がりだった。この週(9月第1週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに2.0~2.5円の値上げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/2 ~ 9/8	3,421 ▼ -1.67	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.4 ▼ -4.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/8	12,815 ▼ -553	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/10	74.41 ▼ -0.26	▲ 22.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/10	67.54 ▼ -2.33	▲ 19.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	77.15 ▼ -0.15	▲ 28.17
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	54,047 ▼ -260	▲ 19,915
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.36 ▲ 0.34	▼ -0.58
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/10	111.93 ▲ 0.06	▼ -2.49

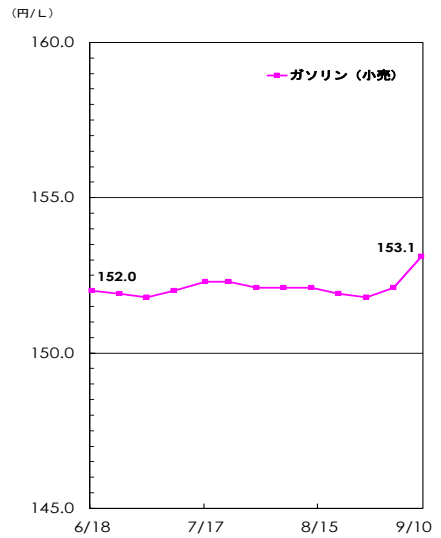
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/2 ~ 9/8	979 ▼ -60	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	966 ▼ -60	▲ -	
	輸出	"	24 ▲ 24	▼ -	
	在庫	9/8	1,555 ▼ -11	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/4 ~ 9/10	69.5 ▲ 1.5	▲ 19.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/4 ~ 9/10	67.0 ▲ 0.8	▲ 16.7
		(TOCOM/中部)	9/10	66.6 ▲ 0.1	▲ 16.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/10	153.1 ▲ 1.0	▲ 21.8	

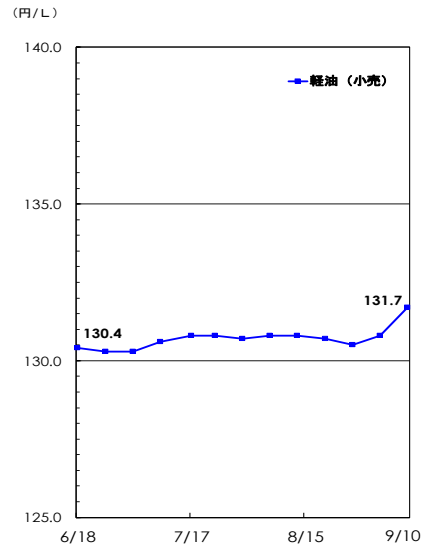
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

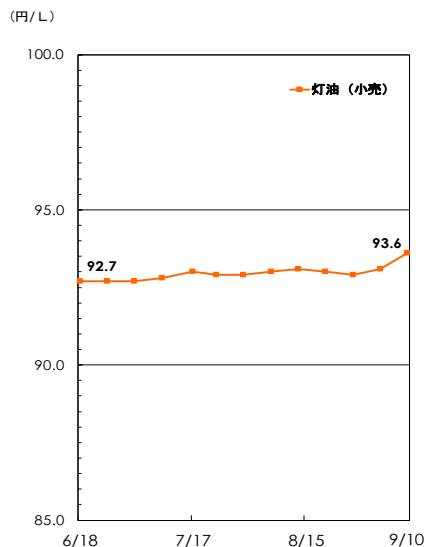
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/2 ~ 9/8	927 ▲ 47	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	651 ▲ 31	▲ -	
	輸出	"	269 ▼ -59	▲ -	
	在庫	9/8	1,580 ▲ 6	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/4 ~ 9/10	70.4 ▲ 1.8	▲ 22.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/4 ~ 9/10	69.0 ▲ 0.2	▲ 21.0
		(TOCOM/中部)	9/10	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/10	131.7 ▲ 0.9	▲ 21.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/2 ~ 9/8	309 ▲ 62	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	168 ▲ 23	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -5	➡ -	
	在庫	9/8	2,358 ▲ 141	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/4 ~ 9/10	70.1 ▲ 1.6	▲ 21.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/4 ~ 9/10	69.9 ▲ 0.4	▲ 20.8
		(TOCOM/中部)	9/10	70.0 ➡ 0.0	▲ 21.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/10	93.6 ▲ 0.5	▲ 17.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月12日のNYMEX市場WTI原油は、イラン原油の供給削減懸念が再認識される中、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が市場予想(前週比80万バレル減)を大きく上回る同260万バレルの取り崩しがあり、さらに、発達中のハリケーンが米国南東部に接近中で需給ひっ迫感が高まり、ドル安・ユーロ高による原油先物の割安感もあって、大幅続伸した。10月限終値は前日比1.12ドル高の70.37ドル、11月限の終値は前日比1.12ドル高の70.16ドルだった。

EIAによると、9月10日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.9セント値上がりの1ガロン2.833ドル(83.7円/㍓)、ディーゼルは前週比0.6セント値上がりの3.258ドル(96.2円/㍓)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年9月2日～9月8日に休止したトッパー能力は6.4万バレル/日で、前週に対して6.4万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は342.1万klと、前週に比べ16.7万kl減少。前年に対しては12.5万klの減少。トッパー稼働率は87.4%と前週に対して4.2ポイントの減少、前年に対しては3.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/5.8%減、ジェット/55.5%減、灯油/25.2%増、軽油/5.4%増、A重油/7.5%減、C重油/12.2%増。今週のC重油の輸入は3.3万kl(前週比0.9万kl減)。軽油の輸出は26.9万kl(前週比5.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンの出荷は96.6万kl(対前週5.9%減)と前週比で2週振りまで減少となり、2週振りに100万klを下回

た。

ジェット4.0万kl(対前週79.6%減)、灯油16.8万kl(対前週15.8%増)、軽油65.1万kl(対前週4.9%増)、A重油20.2万kl(対前週6.7%減)、C重油13.6万kl(対前週44.3%減)。

(単位:千kl)

	今週 (9/2 ~ 9/8)	前週 (8/26 ~ 9/1)	前週比	
ガソリン	966	1,026	▼ -60	(-6%)
ジェット燃料	40	198	▼ -158	(-80%)
灯油	168	145	▲ 23	(16%)
軽油	651	620	▲ 31	(5%)
A重油	202	216	▼ -14	(-6%)
C重油	136	245	▼ -109	(-44%)
合計	2,163	2,450	▼ -287	(-12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月8日時点の在庫は、ガソリン、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは155.5万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては15.7万kl少ない。

灯油は235.8万kl、前週差14.1万kl増。前年に対しては3.1万kl多い。

軽油は158.0万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては7.8万kl多い。

A重油は70.9万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては6.8万kl少ない。

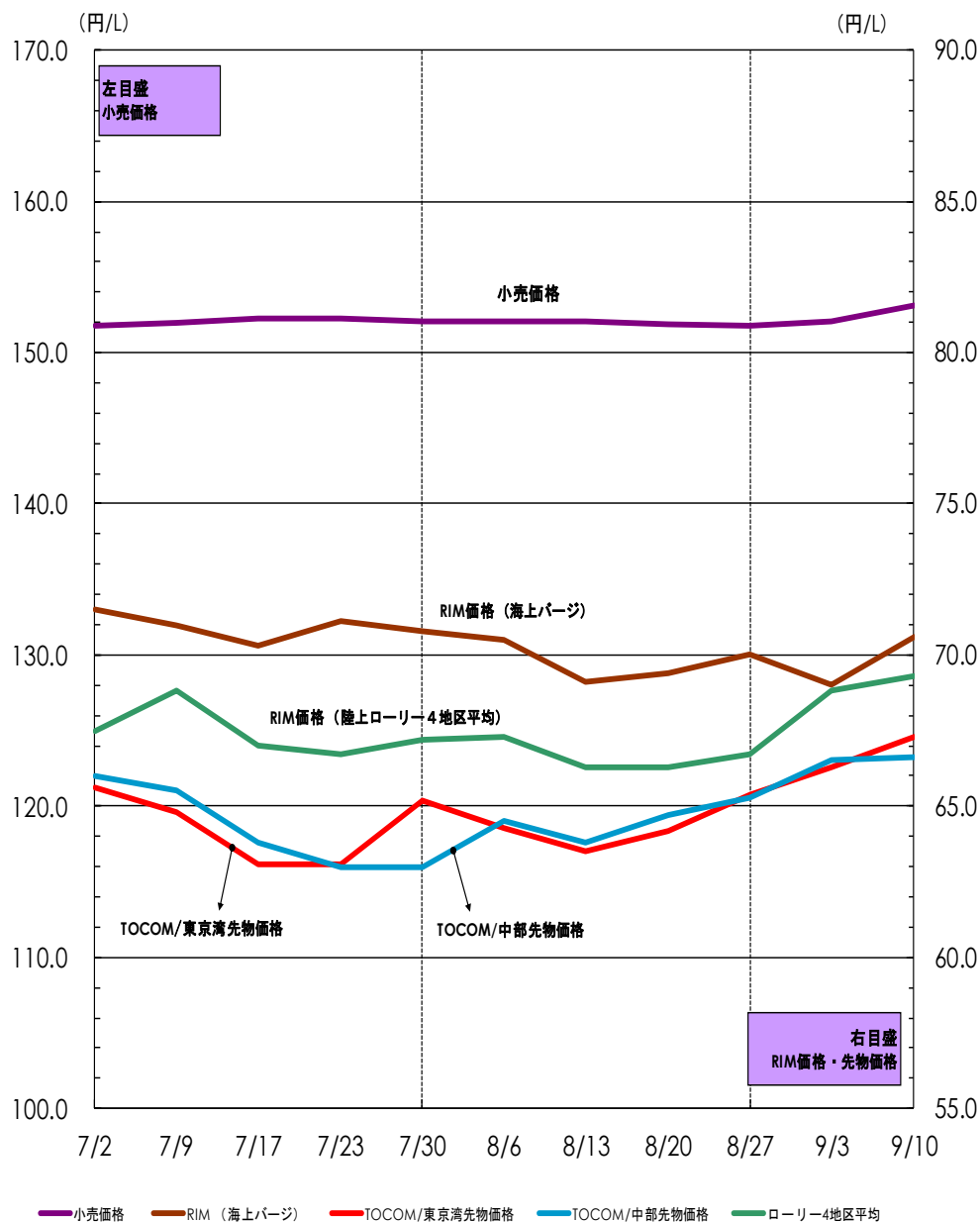
C重油は211.7万kl、前週差8.2万kl増。前年に対しては3.0万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (9/8)	前週 (9/1)	前週比	
ガソリン	1,555	1,566	▼ -11	(-1%)
ジェット燃料	1,136	1,099	▲ 37	(3%)
灯油	2,358	2,217	▲ 141	(6%)
軽油	1,580	1,574	▲ 6	(0%)
A重油	709	736	▼ -27	(-4%)
C重油	2,117	2,035	▲ 82	(4%)
合計	9,455	9,227	▲ 228	(2.5%)

ガソリン価格推移

(2018/7/2 ~ 2018/9/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第23号)の公表は、9/21(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。